

平成30年度の主な取り組み

「かがやき持続総合戦略」の計画期間が後半に入り、海老名駅西口地区や駅間地区のマンション建設や、海老名運動公園周辺地区の土地区画整理が進んでいます。一刻一刻とまちの姿を変化させていることから、「さらなる躍進 未来に向けて」をテーマに、ハード・ソフト両面にわたり新たなまちづくりを力強く推進しました。

切れ目のない子育て支援のまちづくり

えびな子どもセンターを開設

妊娠・出産・育児にかかる母子保健の分野と学校教育の分野を統合し連携することで、子どもたちのライフステージに合わせた切れ目のない支援が可能になりました。



子ども医療費助成事業を継続

〔5億668万円〕

中学校3年生までの入院・通院費用を所得制限なしで助成し、子育て世代の経済的負担を軽減しました。



誰もがいきいきと暮らせるまちづくり

高齢者へのインフルエンザ・肺炎球菌予防接種費用を助成

〔6725万円〕

65歳・77歳・88歳は無償化し、その他の年齢は定額助成を行うことで接種率を高め、免疫力が落ちる高齢者の罹患および重症化予防に努めました。



未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり

全小・中学校にタブレット機器を導入

〔1258万円〕

市内小・中学校全19校にタブレット機器を導入し、ICT教育の推進を図りました。



中学校3年生へのインフルエンザ予防接種費用を助成

〔1696万円〕

高校受験や就職試験などを控える中学校3年生を対象に予防接種費用の定額助成を行うことで、罹患による感染拡大の予防に努めました。



口腔機能の低下を防ぐオーラルフレイル普及・啓発事業を促進

〔2544万円〕

口腔ケアで心身の衰えの進行を遅らせることを目的に、75歳以上を対象に口腔機能調査と機能改善プログラムを実施しました。



安全・安心なまちづくり

市内防犯カメラをネットワーク化

〔1636万円〕

既存の防犯カメラのクラウド（ネットワーク）化を図ることで、犯罪抑止効果を高めるだけでなく、災害時の現況が把握しやすくなるなど、二次的活用が可能になりました。



にぎわいと活力のある産業を生むまちづくり

えびなの名店・名産品の事業者に対し、PRや販売の支援制度を創設

〔500万円〕

にぎわいを創出し、市内全域の経済活性化を図るため、名産品事業者などに對する支援事業やキャッチコピー、名産品などのPR事業を実施しました。

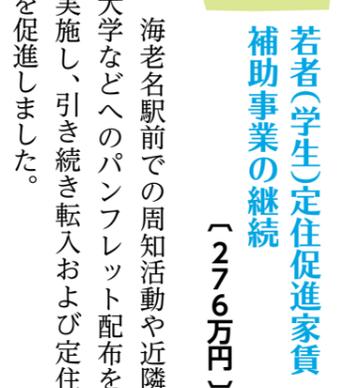


未来につなげる都市経営

若者(学生)定住促進家賃補助事業の継続

〔276万円〕

海老名駅前での周知活動や近隣大学などへのパンフレット配布を実施し、引き続き転入および定住を促進しました。



えびな安全安心ステーションを開設

〔346万円〕

犯罪のない安全・安心なまちづくりを推進するため、海老名駅西口の防犯拠点施設となる安全安心ステーションを設置しました。



災害時情報収集活動用無人型航空機(ドローン)を配備

〔728万円〕

災害などによる被害状況などの情報収集手段の一つとして、無人型航空機(ドローン)を整備しました。



若者定住促進奨学金返還補助事業の継続

〔4346万円〕

奨学金を返還する30歳未満の若者に対し、費用の一部を補助することで、市への転入の促進・転出の抑制を図りました。



EBINAダンスで市の魅力をPR

〔160万円〕

市の元気と魅力を発信するためにEBINAダンスを制作しました。また、プロモーション動画を作成・配信しました。



海老名駅周辺の東西をつなぐ並木橋の改良工事を行いました。車道を広げ、両側に歩道橋を設置することで、安全性と利便性の向上を図ります。



並木橋歩道橋完成イメージ

並木橋歩道架設事業の推進(5力年継続事業)

〔2251万円〕

便利で快適なまちづくり



危機対処型起震車を導入

〔5144万円〕

災害発生時には災害対策本部として、平常時には防災意識を啓発するための起震車として運用できる危機対処型起震車を導入しました。